

個に応じたキャリア教育を実現するための ファカルティ・ディベロップメントの取り組みIX

— 情報化・グローバル化に対応した人材の育成 —

A Trial Study of Faculty Development to Provide All Types of Students
With Vocational Education Geared to Their Abilities IX

玉田 和恵*・神部 順子**・八木 徹***・山口 敏和****・
鈴木 哲平*****・重藤 暁*****・松村 豊子*****

概要

本研究では、学生の基本的な生活習慣の確立、社会人としての厳しさに耐えるための心構え、人間性を育むための心の教育、問題解決力・チームで働く力を伸ばすための教育を実践してきた。本稿では、大学に求められている「『答えのない問題』を発見しその原因について考え、最善解を導くために必要な専門的知識及び汎用的能力」を鍛えるとともに、情報化・グローバル化に対応した人材を育成するための指導法及び活動のあり方について検討する。

1. はじめに

1.1 情報化・グローバル化の進展

社会の情報化・グローバル化が進展する中、日本では若者の内向き指向が大きな課題となっている。2004年（平成16年）以降、海外へ留学する日本人学生数は減少に転じている。また、新入社員に対するアンケートでは、海外での勤務を希望しない者が増えているとの報告もある。海外に行くより、日本にいる方が安全で快適であると考えられる若者が多くなっていると考えられる。

人口減少と超高齢化が進む中で、日本社会の経

済的な存続あるいはある程度の発展を目指すためには、創造的で活力のある若い世代の育成が急務である。とりわけ、グローバル化が加速する21世紀の世界経済の中で、豊かな語学力・コミュニケーション能力や異文化体験を身につけ、国際的に活躍できる「グローバル人材」を育成することが急務となっている。

また、社会の情報化の進展は目覚ましいものがあり、コンピュータ、スマートフォンなど情報機器を活用することはもちろんであるが、全てのものがインターネットにつながり（IOT）、それらから得られる情報をビッグデータとして解析することが求められ、人工知能の発達により人間の仕事が脅かされる時代を迎えている。今から10年後には今ある仕事の半分はなくなるという時代を迎えようとしているのである。

そこで、大学に求められているのは、「答えのない問題」を発見しその原因について考え、最善解を導くために必要な専門的知識及び汎用的能力

2016年11月30日受付

* 江戸川大学 情報文化学科教授 教育学, 情報教育

** 江戸川大学 情報文化学科教授 情報科学

*** 江戸川大学 情報文化学科准教授 情報化学

**** 江戸川大学 情報文化学科専任講師 情報教育

***** 江戸川大学 情報文化学科専任講師 欧米文化文学

***** 江戸川大学 情報文化学科非常勤講師 情報数学

***** 江戸川大学 情報文化学科教授 英語学

を鍛えることにより、「生涯学び続け、どんな環境でも勝負できる能力」を育むとともに、情報化・グローバル化に対応できる人材を育成することである。

1.2 情報文化学科の教育目標

情報文化学科では学生個々の特性に合わせたキャリア教育を実現するために、学生の人間性・社会性、教養を高めるための全人格教育を10年間に渡って実施している。情報文化学科のこれまでの教育目標は以下の通りである。

①人間性を磨く

- (ア) 人間としての在り方や生き方について考えさせ、人と関係を作る力、自己をコントロールする力を育成する
- (イ) さまざまな課題を発見し、取り組み、問題解決する力を育成する
- (ウ) 情報を収集・分析し、社会の動きを見据えて現実を正しく理解し判断することができる力を育成する

② 感性を磨く

- (ア) 感性を磨いて、自分の意図を相手に伝え

ることができる表現力を育成する

③ 学力を磨く

- (ア) 基礎学力・専門性を磨いて、業務処理に対応できる実践力を育成する

上記の目標を達成し、キャリア形成に向けた教育を実現するために、学生の目的意識や現実社会の厳しさを理解させる「動機付け（心）」、自分の目標とする職業に就くための就業力を育成する「テクニック（技）」、大学教育で専門性を育成するための「自分を鍛える（体）」という3つの視点（図1）で、授業や授業外の様々な活動でITと対面での徹底指導を行っている。

1.3 本研究の目的

本稿では、大学に求められている「『答えのない問題』を発見しその原因について考え、最善解を導くために必要な専門的知識及び汎用的能力」を鍛えるとともに、情報化・グローバル化に対応した人材を育成するための指導法及び活動のあり方について検討する。

① 情報化・グローバル化に対応するための学



図1 本学科のキャリア教育に必要な3つの視点（心・技・体）

士力としてのディプロマポリシーを検討する

- ② 情報化・グローバル化に対応した資格取得・人材育成のための活動を検討する

2. ディプロマポリシーの検討

まず、情報化・グローバル化に対応した人材を育成するために、本学科の卒業時の学士力としてのディプロマポリシーについて検討したところ、以下のような案が検討された。

- A. 問題を発見し、目標を設定した上で解決に取り組む、情報通信技術を適切に活用して新しい価値の創造を目指して取り組むことができる
- B. 情報通信技術の仕組みを理解し、モデル化とシミュレーションを問題発見・解決に活用し情報社会の発展に貢献できる
- C. 英語を中心とした語学に関する基本的な知識と技能を修得し、グローバル社会の変化に柔軟に対応できる知性と行動力を培い、

社会に貢献できる

- D. 文学・歴史・語学・思想などの異文化を、英語圏を中心に学び、それについて考え、自分なりの意見を持つことができる。この知的作業をとおして、自らと他者に対する理解を深め、グローバル社会で活動できる人間になる

さらにこれらの項目について指導する場合の評価基準として表1のような3段階のルーブリックを作成した。

全員が達成を目指す第1段階では、各目標について「A. 問題発見・解決を思考する枠組みを理解する」「B. 情報通信技術の特性を説明できる」「C. 語学に関する基本的な知識と技能を修得する」「D. 英語圏を中心とした異文化についての基本的な知識を習得する」とする。また資格取得ではMOS各種と英検3級は必ず取得することとする。

50%程度が達成することを目指す第2段階では、各目標について「A. 枠組みを利用して与えられた問題を解決できる」「B. 仮説検証の手段として、モデル化とシミュレーションを通じて

表1 情報文化学科のディプロマポリシー及び評価基準としてのルーブリック (案)

	教育目標	達成度1	達成度2	達成度3
		全員達成 MOS 英検3級	50%達成 ITパスポート 英検準2級 TOEIC400点以上	10%達成 基本情報技術者 英検2級以上 TOEIC550点以上
A	問題を発見し、目標を設定した上で解決に取り組む、情報通信技術を適切に活用して新しい価値の創造を目指して取り組むことができる	問題発見・解決を思考する枠組みを理解する	枠組みを利用して与えられた問題を解決できる	答えのない問題に対して自ら問題発見・解決することができる
B	情報通信技術の仕組みを理解し、モデル化とシミュレーションを問題発見・解決に活用し情報社会の発展に貢献できる	情報通信技術の特性を説明できる	仮説検証の手段として、モデル化とシミュレーションを通じて予測することができる	社会における情報通信システムの在り方を考察することができる
C	英語を中心とした語学に関する基本的な知識と技能を修得し、グローバル社会の変化に柔軟に対応できる知性と行動力を培い、社会に貢献できる	語学に関する基本的な知識と技能を修得する	語学に関する知識と技能を修得し、積極的にコミュニケーションすることができる	語学力を前提として、グローバル社会で積極的に行動することができる
D	文学・歴史・語学・思想などの異文化を、英語圏を中心に学び、それについて考え、自分なりの意見を持つことができる。この知的作業をとおして、自らと他者に対する理解を深め、グローバル社会で活動できる人間になる	英語圏を中心とした異文化についての基本的な知識を習得する	文化の諸相について、自分なりの切り口で論点を発見することができる	文化現象が孕む問題点を発見し、考察と調査を通じて自分なりの解決を導くことができる

予測することができる」「C. 語学に関する知識と技能を修得し、積極的にコミュニケーションすることができる」「D. 文化の諸相について、自分なりの切り口で論点を発見することができる」とする。また、資格取得ではITパスポートと英検準2級、TOEIC400点以上を目指すこととする。

10%程度が達成することを目指す第3段階では、各目標について「A. 答えのない問題に対して自ら問題発見・解決することができる」「B. 社会における情報通信システムの在り方を考察することができる」「C. 語学力を前提として、グローバル社会で積極的に行動することができる」「D. 文化現象が孕む問題点を発見し、考察と調査をつうじて自分なりの解決を導くことができる」とする。資格取得では、基本情報処理技術者と英検2級以上、TOEIC 550点以上を目指す。

3. 情報化・グローバル化への対応

本章では、今後情報化・グローバル化を育成するための明確な基準として資格取得をいかに実現するかについて述べる。

3.1 情報化に関する資格対応

情報文化学科は、情報に関する基礎知識・技能を学ぶとともに情報化社会に対応した様々な科目を設置している。情報化に対応した内容について検討する際には、授業科目と実際の資格取得の関係を明確にする必要がある。

そこで、本学科が学生に取得を奨励する各科目について、資格との関連を表2のように明確にした。

3.2 グローバル化に関する資格対応

情報文化学科はグローバルに関する基礎知識・技能を学ぶとともにグローバル化社会に対応した様々な科目を設置している。グローバル化に対応した内容について検討する際には、授業科目と実際の資格取得の関係を明確にする必要がある。

そこで、本学科が学生に取得を奨励する各科目について、資格との関連を表3のように明確にした。

3.3 英語の検定試験対策講座

今年度はグローバルに対応した教育を充実させるために、夏期休業期間に英検対策講座を実施した。英語教員が週に1回ずつ、試験直前には集中

表2 情報系の資格取得に関する科目一覧

分野	大分類	中分類	1年	2年	3年
ストラテジ系	1 企業と法務	1 企業活動	情報社会と法(知的財産権)		e-ビジネス論
		2 法務	情報社会と法(知的財産権)		e-ビジネス論
	2 経営戦略	3 経営戦略マネジメント	情報社会と経済		e-ビジネス論
		4 技術戦略マネジメント	情報社会と経済		e-ビジネス論
		5 ビジネスインダストリ	情報社会と経済		e-ビジネス論
	3 システム戦略	6 システム戦略	情報社会と経済		e-ビジネス論
7 システム企画		情報社会と経済		e-ビジネス論	
マネジメント系	4 開発技術	8 システム開発技術	情報社会と経済	情報社会と職業	e-マーケティング論
		9 ソフトウェア開発管理技術	情報社会と経済	情報社会と職業	e-マーケティング論
	5 プロジェクトマネジメント	10 プロジェクトマネジメント	情報社会と経済	情報社会と職業	e-マーケティング論
		6 サービスマネジメント	11 サービスマネジメント	情報社会と経済	情報社会と職業
12 システム監査	情報社会と経済		情報社会と職業	e-マーケティング論	
テクノロジー系	7 基礎理論	13 基礎理論	情報処理論		システム設計論
		14 アルゴリズムとプログラミング	プログラミング入門	プログラミング・情報デザイン論	アルゴリズム論
	8 コンピュータシステム	15 コンピュータ構成要素	情報処理論・プログラミング入門	プログラミング	システム設計論
		16 システム構成要素	情報処理論	プログラミング・UNIX演習	システム設計論
		17 ソフトウェア	情報処理論・プログラミング入門	プログラミング・UNIX演習	システム設計論
		18 ハードウェア	情報処理論	プログラミング・UNIX演習	システム設計論
	9 技術要素	19 ヒューマンインタフェース	情報処理論・Webデザイン論	UNIX演習	
		20 マルチメディア	情報処理論・マルチメディア論	情報デザイン論	
		21 データベース	情報処理論	データベース演習	
		22 ネットワーク	情報処理論・情報社会と法(知的財産権)	情報ネットワーク論・UNIX演習	
23 セキュリティ		情報処理論・情報社会と法(知的財産権)	UNIX演習	情報セキュリティ	

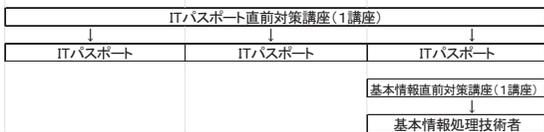


表 3 語学系資格取得に関する科目一覧

	達成度 1	達成度 2	達成度 3
学生の割合	100%	50%	10%
目標レベル	英検 3 級	英検準 2 級 TOEIC 400 点以上	英検 2 級以上 TOEIC 550 点以上
達成見込み	1 年 (年度末)	2 年 (年度末)	3~4 年
1 年	英語表現基礎 Reading I 英語プレゼンテーション I		
2 年		英語表現 I, II Reading II 英語プレゼンテーション II English Communication I, II	
3 年			英語表現 III, IV Reading III English Communication III, IV
達成目標と科目の対応	英検 3 級 文法・読解： 英語表現基礎、Reading I リスニング・二次試験： 英語表現基礎 英語プレゼンテーション I	英検準 2 級 文法・読解： 英語表現 I, II、Reading II リスニング・二次試験： 英語プレゼンテーション II English Communication I, II TOEIC 400 点以上： Reading Section 英語表現 I, II、Reading II Listening Section 英語プレゼンテーション II English Communication I, II	英検 2・準 1 級 文法・読解： 英語表現 III, IV、Reading III リスニング・二次試験： 英語プレゼンテーション III English Communication III, IV TOEIC 550 点以上： Reading Section 英語表現 III, IV、Reading III Listening Section 英語プレゼンテーション III English Communication III, IV

講義の形式で、学生の指導に当たった。

その結果、2016 年度の英検受験者及び合格者は図 1 のように飛躍的な伸びを示した。

4. 最新の情報技術を活用した教育の実現



写真 1・2 夏期英検対策講座

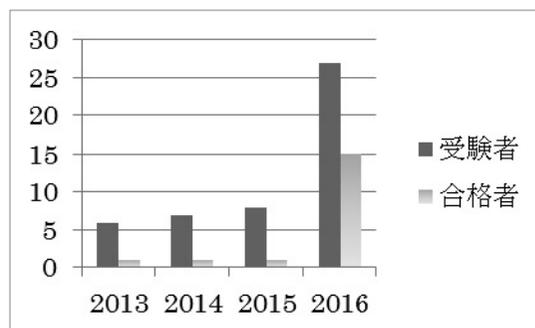


図 1 英検受験者合格者の推移

情報化の進展はめざましいため資格を取得するとともに、最新の機器や技術に対応する能力を育成する必要がある。そこで本学科は、IOT、ビッグデータ、人工知能など最先端の知識を学ぶとともに、バーチャルリアリティ技術 (VR) や 3D プリンタなどを活用した画像系の授業科目を取り入れることとした。特に今年度は 3D スキャナを導入したため、3 次元でのデータ入力が非常に容易になった (図 2)。

5. 学内での国際交流を通じたグローバル化

本学科には多くの留学生が在学している。したがって、海外に留学しなくても、身近なと



VR体験を通して最新テクノロジーを学ぶ



3Dプリンタを用いた立体造形



全身3Dスキャナ（2016年5月導入）

図2 最新機器を導入した授業（VR・AR・3Dスキャナ・3Dプリンタ）

ここで国際交流をするチャンスがある。そのため、情報文化学科では留学生と日本人学生が触れあうための多くのイベントを開催している。江戸川ウォークで留学生とともにバーベキューを楽しむ（写真3）、学科の新入生歓迎会（写真4）で、日本人と留学生がアイスブレイキングをして共に語

り合えるようになる取り組みを行っている。また、囲碁の授業では日本文化を通じた国際交流を行っている（写真5）。言葉がなくてもコミュニケーションができるため、囲碁の授業は日本人学生と留学生の交流に非常に効果を示している。

4年生	中国	2	
3年生	スリランカ	2	ミャンマー 1
	ベトナム	2	
2年生	スリランカ	1	フィリピン 1
	中国	1	
1年生	スリランカ	6	ベトナム 5
	インド	1	



写真4 新入生歓迎会での国際交流



写真3 バーベキューでの国際交流



写真5 囲碁での国際交流

また、日本文化を通じた交流という意味では、毎年2月に実施している先輩方の就職を祈願するための「恵方巻き大会」、7月に実施する「七夕」なども日本人学生と留学生が触れあうよい機会となっている。

6. 留学生への日本語指導

情報文化学科では2014年度から留学生の日本語力を向上させるために、週1回日本語講師を招聘して個別指導を実施している。本年度は、火曜日の2時限目に行っている。

この時間は、日本語の学習以外に、通常授業の課題等で困っていることや、日本での生活全般で困っていることなどを相談することも目的として



写真6 恵方巻き大会



写真7 七夕 (A棟7階廊下)



写真8 留学生の日本語個別学習

いる。担当の日本語講師と本学科の教員が密に連絡を取り合い、留学生の日本語力の状況や何か困難にぶつかっていないかなど生活面などについて綿密な打ち合わせを行っている。表4に日本語講師から授業後に寄せられる授業報告を掲載する。この報告を学科担当教員間で共有し、留学生への適切な対応を行っている。そのため本年度は留学生の退学防止が実現されている。

表4 日本語講師からの詳細な授業報告

9/27 (火) 授業報告

出席者:

3年生 / Aさん, Bさん, Cさん, Dさん, Eさん

2年生 / Fさん, Gさん, Hさん

1年生 / Iさん, Jさん, Kさん, Lさん, Mさん

1. 内容

1年生: 夏期講義からの夏休み課題

JLPT 対策プリント

2年生 / 3年生: JLPT 申し込み, 後期履修の相談

2. 連絡

① JLPT について

7月のJLPTは残念ながら合格者はいなかったようです。

それぞれの得点分布をヒアリングしたところ、概ね聴解は問題なく、文字・語彙での得点が低いようです。

日々のドリルと、読書で知識を固定するやり方で積み重ねていくとよいと思います。

12月のJLPT受験希望者は以下のとおりです。

1年生: Iさん・Jさん (N2)

2年生: Fさん (N2)

3年生: Aさん, Bさん, Cさん, Dさん (NI)
Eさん (N2)

Kさん, Lさんはまだ申し込みを済ませていません。9月30日までにインターネットで申し込むことを伝えましたので、ご確認をよろしくお願いいたします。

(Mさんは受験を迷っているようでした。来年のほうが自信もつくと。練習のため受けたらどうかと勧めましたが。)

なお、本日欠席した学生に希望を聞いておりませんが、夏休み前には受験希望と言っていた学生もいるので、申し込みをしたかをご確認いただきますよ

う、お願いいたします。
インターネットは、MY JLPT に登録→申し込み
→コンビニで受験料振込という流れになります。
JLPT 受験希望者については、各自のカリキュラム
を来週までに作成するつもりです。

- ②テキストについて
やっと「英語・ベトナム語翻訳版」が発売されました。
購入をお願いしたく存じます。
・日本語総まとめ N2 語彙 [英語・ベトナム語版]
・日本語総まとめ N2 文法 [英語・ベトナム語版]

10/11 (火) 授業報告

出席者：
3年生 / Aさん, Bさん
2年生 / Fさん, Gさん, Hさん
1年生 / Iさん, Jさん, Kさん, Lさん, Mさん

1. 内容

- 1年生: JLPT プリント (確認テストおよび練習問題)
2年生: 〃
Fさん: 学園祭準備 (プレゼンテーション作成)
3年生: JLPT プリント

2. 連絡

- ・本日は皆落ち着いた様子で各々のプリントをすすめていました。
(落ち着きすぎて眠気にも襲われる学生も1-2名いましたので、数人で答えを考えるなどして対処いたしました)
- ・恐れ入りますが、届いたN1読解テキストおよびN2ベトナム語版について、
12月受験予定学生および希望があった以下の学生へ、コピーをお渡しいただけますでしょうか。
(その他の学生も、すぐほしいとの希望があればお願いいたします。基本的には来週に渡す予定です)
N1読解: Aさん・Bさん (1週目)
N2読解: Fさん, さん (1週目)
N2ベトナム語版 (語彙&文法): Iさん (2週目&3週目)



写真9・10・11 千葉県私学研修集会での指導・助言・講演

7. 2016 年度実践報告

7.1 高大連携の取り組み

今年度も、さまざまな高大接続の取り組みを行った。今年度最大の収穫であったのは、私学との繋がりが深くなった点である。これまでは、千葉県高等学校情報教育部会との連携が深く、特に首都圏の公立高校の先生方と様々な活動を行ってきたが、今年度は私学の先生方と連携した活動が増加した。

特に、千葉県の私立中学高等学校協会の研修集会(本年度は日本体育大学柏高等学校で開催)に情報文化学科の情報系教員が招聘され、高等学校「情報」の授業に対する指導・助言を行った。これは、本学科にとって本年度の最大の収穫であった。

- ・千葉県私立中学高等学校
千葉県私学研修集会「情報科研修会」
研究授業への助言・講演
- ・昭和学院秀英高等学校
保護者対象「情報活用講座」
- ・千葉県高等学校視聴覚部会 教職員対象
「ICT活用教育と情報モラル」
- ・千葉県立船橋二和高等学校
全生徒・教員対象「情報モラル講座」
- ・千葉県立八千代東高等学校

全生徒・教員対象「情報モラル講座」

- ・千葉県立柏南高等学校
全生徒・教員対象「情報モラル講座」
保護者対象「情報モラル講座」
- ・千葉県立小見川高校
生徒対象
「パソコンの世界をのぞいてみよう！」
- ・東京都立大江戸高校
生徒対象
「パソコンの世界をのぞいてみよう！」
- ・千葉県総合教育センター
教員対象「ICT活用講座」
- ・流山北高等学校 学内インターンシップ
- ・東京学館船橋高等学校 学内模擬授業

7.2 社会人招聘授業

情報文化キャリア総合では「実務家としてこれから迎える近未来と業界研究～3年後 5年後 10年 20年後の自分をイメージする～」というテーマで、職業意識を高めるための講義を行っている。今年度も引き続き実施し、社会の第一線で活躍する実務家を迎え、業界の動向・業務内容・職務内容・職務の大変さ等を実感させることができた。学生は、自分の将来像、職業選択、社会人としての生き方をイメージすることができたようである。

今年度、招聘した実務家は表5の通りである。

社会の第一線で多くの功績を為した人々を招聘するための特別講義やオープンキャンパスでの就職セミナーで講演していただいた講師の先生方は表6の通りである。

7.3 学科イベント

今年も、以下の学科行事を開催した。

- ・書初め大会（1月12日）
- ・恵方巻大会（2月2日）
- ・囲碁交流会：日本棋院開催（2月10日）
- ・社会スタディ参加：私情協開催（2月16日）
- ・歌舞伎鑑賞：国立劇場（6月18日）
- ・サイエンスセミナー（7月29日）
- ・情報教育研究会（7月31日）

表5 情報文化キャリア総合招聘講師

伊藤 満	ティ・オー・エス代表取締役社長
高橋英巳	株式会社エイチ・アイ・エス 関東法人団体専門店事業部 教育旅行セクション 統括
佐川英美	ヤフー株式会社 コーポレート政策企画本部 ネットセーフティ企画室 渉外企画
岡部正勝	慶応義塾大学総合政策学部教授 【警察庁からの出向 元警察庁生活安全局情報技術犯罪対策課長】
高橋大洋	ピットクルー株式会社 インターネット 利用者行動研究室 室長
児玉祐彦	花王ビジネスアソシエ株式会社 代表取締役社長

表6 特別講義・OC就職セミナー招聘講師

浅野昌宏	一般社団法人アフリカ協会副理事長
北村隆志	前海上保安庁長官 鉄道・運輸機構理事
牧野敏夫	株式会社ラック監査役
横井伸好	日本マイクロソフト株式会社 業務執行役員
増山律子	株式会社ランスタッド 名誉会長
五味史充	日本郵政株式会社 グループIT企画部長
池田晶子	SHOKO NEW YORK 代表
安富正文	元国土交通省事務次官 東京地下鉄株式会社会長
吉中昭夫	NHKメディアテクノロジー 取締役



写真12 伊藤忠商事小林会長



写真13 日本マイクロソフト横井役員

- ・企業訪問：Yahoo! Japan 内田洋行
 <写真14> (8月25日)
- ・秋葉原オープンキャンパス (9月4日)
- ・英語教育研究会 (9月24日)
- ・社会見学：カゴメ茨城工場
 <表15> (11月4日)
- ・インターンシップ<表7>：(8月～9月)
- ・長崎研修 (8月15日～19日)
- ・ニューヨーク研修 (3月17日～24日)
- ・学内企業説明会：<写真16>
 ジャコム MOC 全日警 リクシルピバ
- ・サイエンスアゴラへの参加 (11月5日)
- ・東小学校の出前サイエンスセミナー
 (11月29日)



写真14 Yahoo! Japan 企業訪問

表7 インターンシップ協力企業

エイチ・アイ・エス 文化放送	ティ・オー・エス エム・オー・シー
ジェイコム葛飾葛飾	ラック
ジェイコム東関東局	NHK メディアテク
ジェイコム足立	ノロジー
ジェイコム 東京すみだ台東局	東京メトロ
土浦ケーブルテレビ	ホンダカーブス埼玉
ジェイコム茨城	千葉トヨペット
	サカイ引越センター

6. まとめと今後の課題

本稿では、これまでに情報文化学科で実施してきた個に応じたキャリア教育を実現するための取り組みに加えて、情報化・グローバル化に対応した人材を育成するための指導法及び活動のあり方について検討した。まず、情報化・グローバル化に対応した人材を育成するためのディプロマポリシーを検討し、各資格に対応した授業科目との関



写真15 カゴメ茨城工場を訪問



写真16 学内企業説明会 (リクシルピバ)

連性を明確にした。

これからは情報化・グローバル化に対応した指導を実践し、未来社会で活躍できる学生を多く輩出していかなければならない。

謝辞

本研究は平成29年度学内共同研究「答えのない問題に最善解を導く問題解決力育成カリキュラム開発」の支援を受けて行った。関係各方面の皆様へ感謝いたします。また、本研究にあたって、さまざまな方々の協力をいただいた。特別講演会にご協力くださった皆さま・長崎の皆さま、ニューヨークの皆さま、活動を支えてくださった江戸川大学教職員の皆さまに心から感謝の意を表します。

参考文献

- 経済産業省「社会人基礎力に関する研究会 中間報告書」
<http://www.meti.go.jp/press/20070517001/kisoryoku-reference.pdf> (参照日 2015年11月10日)
- 文部科学省(2000)「グローバル化時代に求められる高等教育の在り方について(答申)」http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/old_chukyo/old_daigaku_index/toushin/1315960.htm (参照日 2016年11月15日)
- 文部科学省(2008)「学士課程教育の構築に向けて(答申)」http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/houkoku/080410.htm (参照日 2015年11月30日)